

備前市事務事業評価表

事務事業名	働く婦人の家管理運営事業		コード	04-02-05-05
			担当課・係	中央公民館
			担当者	吉村美名子
			電話	64-1133
事業実施期間				
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり		
	中項目(基本施策)	起業と創造が支えるまちづくり		
	小項目(施策)	勤労福祉		

事業について		
目的 (何のために)	男女共同参画社会を目指して女性の自発的学習を促進し、女性教育に関する情報の収集、提供を行う	
対象 (誰・何を対象に)	市内在住在勤	
内容	各種講座、レクリエーションの実施	

事業の結果			
実施項目	17年度		18年度
	回数など (単位)	回数など (単位)	回数など (単位)
料理講座	5回開催定員100人 延83人	3回開催定員90人 延34人	
セミナー・講座	6回開催定員120人 延86人	2回開催定員40人 延41人	
グループ活動実施回数	11グループ 延348回	10グループ 延334回	
グループ活動参加人数	11グループ 延3102人	10グループ 延3134人	

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源				
	直接事業費	198	間接補助金等		直接事業費	133	間接補助金等				
	人件費	4,520	委託費負担		人件費	1,965	委託費負担				
		市債				市債					
合計	4,718	一般財源等	4,718	合計	2,098	一般財源等	2,098	合計	0	一般財源等	0

必要人員	0.60人		0.25人	
結果指標	健康料理講座		テンベ講座	
結果指標量	83		34	
単位	人		人	
対前年比	-		40.96%	
活動にかかるコスト	75,200円		38,556円	
単位当たりコスト	906円		1,134円	
結果指標	リフレッシュ健康体操		ワークセミナー	
結果指標量	86		41	
単位	人		人	
対前年比	-		47.67%	
活動にかかるコスト	105,200円		32,750円	
単位当たりコスト	1,223円		798円	

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	講座開催により利用者の増加と新たなグループの育成を図る		
成果指標名	講座参加者数(%)	式又は説明	参加人数 / 講座募集定員
	17年度	18年度	
成果指標量	77	58	
対前年比	-	75.32%	0.00%
到達目標値	100	到達目標年度	毎年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成18年度事業)	
目的・対象・内容・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等： 地方自治法第244条の2	妥当性評価<A~E> D 課題認識
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	施設名称、変更等は法令的に出来ないのので、条例の目的に沿い存続しなければならない。
	市民ニーズの妥当性	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である		
効率性の評価	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input checked="" type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	効率性評価<A~E> C 課題認識
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	行政主導でなく自主活動グループの定期的な利用により講師謝礼等の経費の軽減を図る。
	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価<A~E> C 課題認識	
有効性の評価	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	設置目的に添って市民が自主的に効率よく利用している。
	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	

平成19年度状況		説明 開館以来始めて18年度に21世紀職業財団と共催で再就職準備セミナーを開催し好評を得たので今年度も開催する。講師謝礼の必要な講座は料理講座だけになったが公民館講座の内容と重複しないものを選定した。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している	
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している	
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している	<input checked="" type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	

目標値	結果指標量	45	結果指標量	40
	成果指標量	75		

総合評価	18年度再就職準備セミナーの開催により、設置目的に沿う「働く婦人の家」らしい講座をすることが出来た。参加者のアンケートからも好評だった講座の開催を定着させたい。複合施設のため最小の維持管理費で多くの人に有効利用されているので、運用の見直しを行い現状を維持すべきである。	評価区分<A~E> C
------	--	-------------

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
--------------	---	---

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	講座に勤労福祉施策についてのセミナーを取り入れる	平成20年度	設置目的に沿いながら新たな利用者の増加が見込まれる